



Bhichai Rattakul

ビチャイ・ラタクル

2002-03 RI 会長 タイ・トンプリ RC



Sow the Seeds of Love

2002-03年度 RI テーマ

この月間に関連づけて、私たちはビジネスを改善し、若者には職業訓練や技術を、障害者には仕事を提供するために、職能を発揮するべきです。ロータリーの第二の奉仕部門は、社会に貢献する限りない機会を提供します。

四つのテスト

大恐慌時代の 1932 年、シカゴのロータリアン、ハーバート・テイラーは彼の会社であるクラブ・アルミニウムの指標となるように「四つのテスト」を考案しました。それは社員の士気にとってよいものだけでなく、ビジネスにとっても有効でした。消費者は、テイラーの会社が強調した高品質と誠実なサービスに対して熱心に応えたのです。彼は会社が倒産から救われ、数百万ドル企業に変容できたことによって、そのテストに確信をもちました。テイラーが 1954 - 55 年度の RI 会長を務めたときに、「四つのテスト」の著作権をロータリーに譲渡したのです。

今日の厳しいビジネス環境の下で、多くのロータリアンは「四つのテスト」の妥当性に疑問を投げかけてきました。それでも、これらの 4 つの質問は数十年もの間、ロータリアンにとっての倫理的指針という役目を果たすことで、時の試練に耐えてきました。今日、これまで以上に、ロータリアンがビジネスそして個人生活のなかで、模範の役割を果たすことは必須なことです。私たちが「四つのテスト」を復唱するだけでは十分ではありません。それを実践するのです。私たちは、ロータリーが有用であり、誠実に行動していることを世界に示さなければなりません。

職業奉仕の場でこそ

ロータリアンとして評価されます

元 RI 理事のエルマー・ジョーダン氏は、1980 年代半ば、次のように書いています。「あなたや私が日々の糧を稼いでいる職業奉仕の場こそ、私たちがロータリアンとして評価される場所なのです。私たちがビジネスや専門職でどのように行動するかは、本当に重要なことなのです」。

ジョーダン氏の言葉は、ロータリーが 100 周年に近づいている現在も真実と受けとめられます。ロータリアンとして、私たちは公の信頼性を高める能力によって判断されるのです。私たちは、職業奉仕と最高水準の商業倫理に対して、創立以来の由緒ある取り組みを果たすことによって、慈愛の種を播き続けなければなりません。

Bhichai Rattakul

2002-03年度国際ロータリー会長



救急蘇生法を教える国富氏

地域の“先輩”仕事を語る！

「トライやる出前講座」開催

姫路西ロータリークラブ 国富 奎三

“トライやるウイーク”の視点を変えて

今年6月12日、「地域の“先輩”仕事を語る」と題した「トライやる出前講座」を姫路市立網干中学校において実施し、クラブ会員が教壇に立って、それぞれの職業について、喜びや苦勞そして仕事の意味について生徒たちに語りました。

兵庫県では、数年前から「トライやるウイーク」という、地域の企業や公共施設が中学2年生を受け入れ、学校だけでなく地域全体で、子どもたちの健全な育成に取り組んでいます（1999年『友』3月号横組みP40～41に関連記事掲載）。わがクラブも支援協力をしておりますが、業種により子どもたちにとっては危険な職場であったり、また生命や財産を預かる職業もあるため、受け入れがたいところがありました。しかし、子どもたちの健やかな成長を願う気持ちには変わりなく、何らかの形でお手伝いできないものかと考えていました。

そこで、会社に子どもたちを受け入れるのではなく、こちらから学校を訪問して、自分たちの職業について子どもたちに語ろう、将来の進路の役に立ち生き方の参考にしてくれればとの思いから、職業奉仕・社会奉仕・新世代合同委員会を開催し、事業の目的や内容、対象者などの検討を重ね、地元中学校の校長先生とも意見交換を行い、「トライやる出前講座」という名称で実現できました。

工夫を凝らした講座で子どもたちと語る

出前講座の内容は、参加メンバー19人の職業分類から製造業、情報サービス業、食品製造業、専門サービス業、医療業、建設業、保険金融業ならびに宗教の8講座となり、テーマを「日本の物作り—アイボからロケットまで—」「地理情報システムと航空測量」「インターネットで勝利をつかもう」「コーヒーを飲むと頭がよくなる?」「資格を活かす私の将来」「命を預かる私たちの心—掃除

10月は 職業奉仕月間

機で助かる命」「神も仏もあります」など、バラエティーに富んだものに決まりました。

受講者は、進路指導の一環として3年生165人で、生徒は自由に講座を選択できます。さらに当日はオープンスクールとして保護者や地域の人たちも受講できるようにしました。講師役を務めたメンバーのほとんどが、教壇に立って話すのは初めてでしたが、事前に準備していたレジュメを配布したり、ビデオやプロジェクターを使って、自身の仕事や、今までに取り組んできた専門分野の話を、生徒たちと向き合って、表情を見ながら熱心に話し、語りかけました。生徒はもちろん、受講された保護者の方々も熱心にメモを取るなどして、聞き入っていました。

手ごたえあり！ さまざまな感想

講座を受講した生徒たちの感想文(抜粋)を紹介させていただきます。

- ・今の地球がすごいことになっているのを、あらためて感じました。もっと簡単な内容だと思っていたけど、とても難しく理解しにくかったです。でも、これからの地球のためには、私たちが将来頑張らなければいけないということがわかりました。
- ・おもしろかった。興味深い話もあった。複雑な部分もあったけど、それを生かしていこうと思った。

- ・今日は、今まで知らなかったことがいっぱいわかって、とても勉強になったし楽しかったです。またやってほしいなと思いました。
- ・今まで知らなかったことをたくさん知ることができたと、共感する部分がありました。「ナイチンゲール」精神の話とか、「ナースキャップ」をかぶるのはすごく大変なことだということ、そして、心臓マッサージや人工呼吸のやり方などを教えていただきました。私の将来の夢というか、就きたいと思う仕事は「人の手助けをする仕事」なので、これからの生活や進路にも役立てていければいいなと思いました。
- ・一番心に残ったのは、「オギャーと生まれたら死ぬ」という言葉です。人間いつかは死ぬんだ…とあらためて思いました。ちょっと複雑です。生まれた時から死が決まっているから。
- ・人は支え合って生きている。自然も！ お話を聞かせてもらって、見方が少し変わりました。

学校、当クラブ共に初めての試みで、内容が少し専門的になってしまうところもあり、中学生には難しかったかなと反省すべき点もありますが、成長を願う大人たちの熱意は十分伝わったのではないかと確信しております。これからも、子どもたちのための出前講座として続けていきたいと考えております。(第2680地区 兵庫県)



「トライやる出前講座」



場面いろいろ



10月は
職業奉仕月間

不思議なバッジ

八潮RC 川澄 吉夫
職業分類 道路建設

“やあ！ と言い オイと呼び合う この仲間 手を振り合おうよ 命の限り” 歯車のバッジは、初めて会った人同士でも、すぐに声をかけ合える不思議な力をもっています。

以前、電車の中で隣の外国人が「あなたはどこのクラブですか？」と話しかけてきました。彼もロータリアンで、1か月前に仕事で日本に来たそうです。「メーカーアップにはぜひ八潮クラブへ」と言って別れましたが、「じゃあ！ また！」と言いたくなるほど親しみを覚えました。外国人でそうですから、日本人ロータリアンならなおさらです。

私の会社は建設業ですが、社員が近隣住民に工事のあいさつに行くと「社長のことロータリーでよく知ってるよ」と言われるそうです。住民に迷惑をかけずには施工できない道路工事や下水工事も、ロータリアンという名の友達がたくさんいるおかげでトラブルもなく進む例はたくさんあります。

先日も道路工事現場で1台のベンツが腹をするトラブルがありました。黒のベンツ！ もしかしたら…と思ったら、その方もロータリアン！「僕の方も少し不注意だったんです」と言ってくださり無事解決。

歯車のバッジは好意と友情を深め、気さくに「やあ！」と言い「オイ」と呼べる仲間になれる。なんとも不思議な力をもったバッジです。私もどこかで誰かに力を貸すこともあると思います。精いっぱい好意と友情を秘めながら、今日もロータリーの歯車は回り続け、不思議な力を蓄えていることでしょう。 (第2770地区 埼玉県)

出合いこそロータリー

ロータリーの良縁は 輪を広げる

大阪柏原RC 岡村 政嗣
職業分類 接着剤製造

クラブ会員の中で、特に親しく付き合っている仲間
に石崎昭君がいる。会員歴は私が20年、彼は10年であるが、今年還暦を迎えた全くの同年輩。都市部のクラブと異なり事業経営者の少ないわがクラブで、彼は特殊包装資材、私は化学製品と、苦労をともに語ることができる中小企業経営者である。

例会で顔を合わす程度の二人が、急速に親密度を増したのは5年ほど前。彼の引っ越しで住まいも近所になったことから始まり、お互いの事業内容をも語り合う仲になった。ロータリーの会員は裸の付き合いが必要である。それが本来のクラブ組織であり、そこにクラブ活性化と発展の泉がある。

たまたま私の親しいビジネスフレンドに上場企業の代表者がいて、彼を紹介することにした。後で聞いた話だが、石崎君は私の顔を立てるべく渋々ついてきたそう

である。ところが縁とは不思議なもので、紹介した会社の開発部長が持ち込んだ仕事がトントン拍子に進み、特許製品が完成し、短期間に石崎君の会社の主要取引先となったのである。

ここまでならよくある話であるが、人間関係の良縁はどんどん輪が広がるものである。今度はその開発部長が石崎君を、その会社の主要取引先で、それも業界トップの超優良会社に引き合わせた。その結果、またまた特許新製品が開発され、その新製品を今度はなんと当社が製造供給する回り合わせになったのである。こうして石崎君は当社のお得意先となり、より一層の親密性が深まり友好関係を保っている。

彼の会社の優秀な資質があつてのことだが、この間わずか一年という短期間である。私は彼とこの一件で、ロータリークラブ入会の意義は十分あったと考えている。石崎君も同感であろう。ロータリアンは自分をさらけ出し理解をしようべきだ。ロータリーの原点に戻り、互いの職業のもつ“知恵”と“顔”をもっと活用しようことを私は勧める。ロータリー万歳、ロータリアン万歳。

(本誌3月号縦組みP23に関連記事) (第2660地区 大阪府)

10月は 職業奉仕月間

結べ 本土と佐渡島

佐渡南RC 小浜 美晴

職業分類 レジャーサービス

当クラブの特色は、先輩諸氏の温かい思いやりがあることと、佐渡島にある会社の支店の関係から、その代表者の入会が多少見られることです。そこで特に印象に残る事例がありました。それはNTT佐渡支店に転勤されたK君との出会いでした。

普通、島民数千人以上の離島には、光ファイバーがほとんど敷設してありますが、ここ佐渡島は7万余の人口がありながら未整備でした。そのことに危惧の念を感じたK君は、採算を度外視してでも、何とか光ファイバーを敷設しようとしました。行政などありとあらゆる機関に交渉を進め、全長約60kmにわたる難工事が行われ

ました。島中をあげてもいろいろな協力をし、私も調査のための船舶を貸し出したりなどしました。そうした彼の情熱の傾注の結果、ついに在任中に工事の竣工を迎えました。

本土と佐渡島がつながり、膨大な情報を瞬時に送れることで、鮮明な映像による手術の遠隔指示が可能となりました。高齢化社会を急速に迎えているわが島にとっては、まさに財産であります。このほかにも光ファイバーの運用には計り知れない可能性が期待できます。

彼とは大変気が合う間柄でしたが、「おれが支店長の時に、必ず実現する」が口癖でした。彼ほどの情熱の持ち主はそうはいないと今でも思います。その彼も転勤により新潟に帰って頑張っています。自然の野山、透明感のある海、素朴な島民、こよなく愛する佐渡島に大きな社会資本の整備をありがとう。すてきな出会いに感謝！

(第2560地区 新潟県)

会員同士の仕事上での出会い

たった一度の出会いから

境RC 板垣 明

職業分類 衣料品卸

職業奉仕とは、自分の職業に誇りを感じ、社会に対し広く貢献していくことが目的であると確信します。

私の仕事は、体育着などにアイロンで張り付ける、名前などのプリント文字の製作です。私がこの仕事を始めようと考えた当時、体育着に個人名をマジックで書いたり、印刷をしたりしても、毎日のように洗濯すると書いた文字は薄くなり、最後には見えなくなるという状況でした。

そこで、アイロンプリントの文字を製作しようと考えたわけですが、学校によってゼッケンの大きさがさまざまのため、文字の大きさや素材の違うものを何種類も作製し、洗濯に強い塗料を開発し、多くの学校、スポーツ店などで広く採用されるよう努力を重ねて今日にいたりました。

今から20年前、埼玉県さいたま市のモリ商会という

お店を訪問した時、あるロータリアンの社長に出会いました。私はいつもスーツにロータリーのバッジを着けていますので、初対面の社長とは商売の話よりむしろロータリーの話に花が咲き、30～40分くらい話をしました。その時の話の中で、18年間無欠席であることを自慢されていたのを記憶しています。こういったことがきっかけで取引が始まり、現在も活気ある取引をしていただいています。

取引開始からは一度もお会いしていませんが、現在まで20年間取引が続いていることを考えると、まさにロータリアンとしてのつながりに感謝したいと思います。あれからロータリーの面においても、社長をお手本にして、私も入会以来24年間連続出席してきました。今後も社長を目標にして頑張りたいと思います。

今回このレポートを書くにあたって電話をしました。現在の出席状況をうかがうと、なんと39年間無欠席であるとおっしゃっていました。浦和北ロータリークラブにメイクアップに行き、お礼のあいさつをしたいと考えています。

(第2820地区 茨城県)

10月は
職業奉仕月間

女性ロータリアンが語る 職業奉仕

今月は職業奉仕月間です。
2000年10月号では、入会3
年未満と3年以上の各会員
から職業奉仕について伺いまし
たが、今回は職業人として活躍

する女性ロータリアンに焦点を
絞り、クラブから選ばれたみな
さんに、自分の考えている職業
奉仕について語っていただきま
した。

音楽を通して地域交流

盛岡北RC 田口 絢子（音楽教師）
1997年3月入会

私はロータリークラブに入会して5年になります。職業は音楽教師で、クラブでは例会でソングリーダーを務めピアノを弾いています。また、自分の経験を生かして現代社会の問題、青少年問題、高齢者問題や、国際交流などに、音楽を通して取り組んでいます。

例えば、私の地域では、郊外で昔から住んでいた人たちと、若い家族が新しい住居を建てて住んでいます。町内の問題として、なかなか融和が進まないということがあります。そこで私は、古い人たちと新しい人たちと一緒のコーラスグループをつくり、音楽の楽しさを感じながら交流を図りました。

村の神社のお祭りや、子どもたちやお年寄りと一緒に歌を歌ったり、敬老会、知的障害者の慰問、老人ホームへの季節ごとの訪問などの奉仕活動をしています。グループは、町内だけでなくとどまらず、市内、県内のボランティアグループとともに交流活動をしています。

ロータリーの青少年交換学生、GSE、友情交換の来訪の機会をとらえて、地域の人たちとの交流も楽しんでいます。

（第2520地区 岩手県）



台上上がって歌の
指導をする田口さん
（中央右側）

培ったノウハウで

佐久コスモスRC 丸野 幸子（社会保険労務士）
1991年5月入会

会社設立以来12年、「職業奉仕とは何か」を真剣に考えたこともなく、原稿依頼に戸惑いました。新入会員セミナーの際に、携わる職業を通じて社会に貢献することと教育を受けたものの、あらためて考えたこともありませんでした。

原点に戻って考えてみると、職業として「社会保険労務士」は、“企業は人なり”の一端を担う仕事であり、労働に関する法律の専門家と自負しています。

混迷する経済社会の中、企業がグローバル時代の競争に打ち勝つため、いかに法律に沿った労務管理ができるか、賃金体系に連動した人事制度や優秀な社員の育成、社員の将来の年金問題、国政に沿って行う事業の助成・補助金の申請など、三十数年携わり培ったノウハウで貢献すること、これが私にとっての職業奉仕と結論に至りました。

（第2600地区 長野県）

“パンのため”から“地域のため”に

函館東RC 渡辺 友子（建築設計）
1990年8月入会

私は、父を若くして亡くしたために、高校を卒業と同時に“パン”のために仕事に就きました。それから37年…平成不況といわれてからは、父親の残した境田工務

10月は
職業奉仕月間

所という名称を変えるかどうか、長い間こだわっていましたが、ある方の「時代に合わせていかなければ水没するよ。そうしたら、一番悲しむのは親ですよ」という言葉に励まされ、思いきってリード不動産と変えました。低迷していた不動産部門は業績向上の兆しを見せ、ホッといたしました。大変厳しい経済状況ですが、時流を読み、水没することのないよう頑張っております。

このごろ、人生も半ばを過ぎ、これからの行く末、“パン”のためだけでよいのか、どうあるべきなのかを考えることが多くなりました。そして得たことは、自分の職業に誇りを持ち、会社を良くして社員を幸せにし、地域にあって役立つ会社にすることが、これからの使命ではないかと思えるようになったことです。

そして、ロータリアンとして“共に勝つ”精神で切磋琢磨することが、職業奉仕の理念にかなうと思っております。ロータリーに推薦して下さった人、いろいろ教えて下さった人、多くの人々に支えられて自分があることに感謝し、日々幸せに生きていきたいと念じております。(第2510地区 北海道)



これからの使命のために！

実践の機会をつくる

長崎出島RC 西川 範子 (包装製品配布)
1999年4月入会

私にとって“職業奉仕”とは、第一に会社経営に全力を尽くすことと思う。そのために良質で安全な商品を作り出して、お客さまがその商品を喜んで使ってくだされば、それが職業奉仕であると思っている。第二に経営者である自分が、自ら清く正しく公平な姿勢をもつために、「四つのテスト」に則した行動をとる努力をし続けること。第三に職業奉仕の機会をつくることだと思う。

私は1年前から5人の障害者を工場内に受け入れて、社会参加のための支援を微力ながらやっている。受け入れた当初は、社員とお互いが打ち解けなかったが、汗を流し合い共同作業をしていくうちに、心が通じ合ってしまった。社員たちは、彼らが社会経験を通して自立心をはぐくんでほしいと願いながら、職場の中で人のために

できることの喜びを確認している。

人の役に立ちたいと思う美しい心は誰もがもっている。職場の施設や環境の中で奉仕のできる機会をつくっていくことも、職業奉仕の実践になると思う。

(第2740地区 長崎県)



職場の皆さんと一緒に(後列中)

豊かな心は奉仕から

石橋RC 高木 敏子 (茶華道)
1996年3月入会

ロータリーで言う職業奉仕の趣旨が理解できず自問自答の日々、そんな時、当クラブのある石橋町がドイツと姉妹都市提携をしている関係で、毎年大学生10人ほどが来日し、国際交流協会の事業の一環として、日本伝統文化の一つである「生け花」指導の依頼を受けました。また、地元の小学校6年生からもお茶と生け花の体験の要望があり、体験教室を行ったところ、ドイツの大学生たち同様、初めてのことに子どもたちは興味深く心から楽しんでいました。さらに、老人ホームでも、毎年5月に茶席を設け、身体障害者のお年寄りがお茶をいただいている表情に心安らぐ気持ちです。

以前、米山奨学生のカウンセラーを受けた時、中国の女性がお花とお茶に心を引かれ、けいこに来て友達もたくさんできたということです。

お茶と生け花には、“一期一会”また“和敬静寂”という言葉がありますが、この言葉こそロータリーの精神と共通していると思います。現在、このように広範囲において、私自身の職業が少しでも社会に貢献できたのではないかと自負しています。これからも職業奉仕とともに、大勢の方が日本の伝統文化に目を向けてくださることを願っております。(第2550地区 栃木県)



高木さんから熱心に生け花を習う留学生たち

10月は
職業奉仕月間

「やった」と思える授業を

横浜あざみRC 一楽 祥子 (教育)

1991年5月入会

高校で数学を教えています。今の教室は昔のように、先生の話を生徒が黙って聞き、板書をノートするという授業が成り立ちにくくなっています。準備を十分にしておいて授業に臨むというのは当然のことですが、それを生徒にどう聞かせるか、生徒の注意をどう集中させるか重要な課題になってきています。

授業の内容を商品に例えれば、良質な商品を販売するだけでなく、いかに良い買い物をしたとさせていただくか、そしてその商品を十分に活用し、楽しみ、生活に生かしていただくかということ、授業をする際にも考えていかなければと思っています。つまり、授業を、一方的に教えるのではなく、皆で参加し、問題を設定して考えていく場とし、その中で考える楽しみ、わかる楽しみを味わうことができ、終わった後で、「今日はやったぞ」とか「今日はわかったぞ」と思えるような授業を追求していくことが、教師である私の、職業奉仕だと考えています。(第2590地区 神奈川県)



みんなわかったかな？

患者さんに寄り添って

大分キャピタルRC 竹内小代美 (心療内科)

1999年9月入会

私は、大分駅前子どもから老人までのストレスケアのクリニックをやっています。極端にいうと、近代の専門医療は高度先進技術で、身体の局所の部位を物として治療します。

ストレスケアでは、人間を心と体をもった総合的存在としてとらえます。その方法は心身医学、精神医学はもちろん、一般医学、漢方医療、心理療法、催眠術、リ

ラクゼーション法など、多岐にわたる分野から柔軟に採用しています。患者さんで最も多いのは、心身のエネルギー切れである「うつ病」と、不安やこだわりを伴う動悸、めまい、頭痛など、身体症状を呈する「ストレス病」です。また、不登校、チック、摂食障害、その他、多岐にわたる児童・青年期の相談や治療も行っています。患者さん一人ひとりの“健康で幸せになる力”は無尽です。患者さん自ら、今より、より良い方法に気づき、考え方を換え、感情まで変化していくのに寄り添うことが、私の職業奉仕だと考えています。(第2720地区 大分県)



明るい医院内にて

顧客とのコミュニケーション

深谷RC 熊谷 俊子 (生命保険)

1997年3月入会

私の職業は生命保険の営業です。生命保険という商品は、目に見えない商品であり、お客さま一人ひとりの人生において、これから起こり得るさまざまなリスクに対応する商品をお客さまと一緒に考え、相談を重ねながら提案していくことが必要になります。この提案活動を行うにあたり、私が一番大切にしていることは、顧客との密接なコミュニケーションです。

営業に従事する者として単純かつ当たり前のことですが、このことを通して、いかにお客さまに信頼感・安心感を抱いていただけるか。私は16年間この仕事に従事しており、さまざまなお客さまのお付き合いをさせていただいておりますが、生活環境や社会情勢の変化に伴い、お客さまのニーズも年々多様化しております。

そのさまざまなニーズに柔軟に対応し、最良のパートナーになること。このことは、私にとって永遠のテーマであるような気がします。

顧客との密接かつ温かいコミュニケーションこそが、生命保険営業にとって、一番重要な要素であり、また地域社会への職業奉仕であると考えています。

(第2570地区 埼玉県)

10月は 職業奉仕月間

奉仕は無償の愛

船橋東RC 根本千枝子(不動産情報)

1998年12月入会

私らしく人生の道を歩きたい!! そんな思いで会社設立12年と日は浅いですが、日ごろ心がけている私の個性でしょうか、限られた中ではあるけれど、誠心誠意尽くすことは当たり前。そんな中で、「奉仕は無償の愛」と思いながら今日まで仕事のできる喜び、多くのお客さまの悩み事、さまざまなことが持ちこまれる問題を解決した喜びは、お金や物に代えられない感動です。

4年前、船橋東ロータリークラブの入会にて、職業奉仕の言行が私の心の中での奉仕と一致し、自身を磨く会として幸せに感じました。クラブの中でもお手本にしたい立派な人たちとの交流ができることに感謝しています。さらに、私の事務所に来られたお客さまの中で、「四つのテスト」の言行を見て「この会社に仕事をお願いすれば安心だ」と言われた言葉の中に、信頼という文字が、私の頭の隅々まで喜びを覚えました。

お金も物も大切ではありますが、心の大切さを失うことなく、日々元気に、また好意と友情、真実、みんなのためになる努力をし走り続けることが、ロータリーの職業奉仕につながるのではないかと考えています。

(第2790地区 千葉県)



笑顔の素
な根本さん

喜んで“明るく楽しく健幸創り”

宝塚中RC 小山 一子(生涯教育指導)

1995年8月入会

脳卒中を東洋医学の実践により克服した経験を請われて23年半。ほほえみ会(発会1979年2月)では、“いつでも・どこでも・どなたにも”気軽に続行できる「にこにこ体操」と、心を強く明るく豊かにできる「陽転思考法」を指導しています。

一度聞くとやみつきになるといわれる笑顔とスピーチ

のユニークさが受け、現在では週2回の定期レッスンと各種団体や個人、また地区内外のロータリークラブからのスピーチ依頼に東奔西走の毎日です。ホームクラブでも入会以来、毎年度欠かさず、会長や各奉仕委員長の命により、最低月1回リフレッシュ体操をして喜んでいただいております。

「生涯人間現役」今まで培ってきた能力や技術で一人でも多くの人々の健幸創りのために喜んでお役に立たせていただくこと、それこそ私にとっての職業奉仕と心得、「自分の健幸は自分で創り守る」という意識革命のために、遠近問わずはせ参じたいと、今日も笑顔と心身を磨いているところです。(第2680地区 兵庫県)



さあ一緒に健幸
創りを!

ユニバーサルデザインへ

甲斐RC 清水 豊子(建築材料販売)

1998年4月入会

4代さかのぼったころから、材木屋として「木の命」にかかわることを生業なりわいとしてきました。子どものころから父の背中に「数百年かかり成長した木を切り商品にさせてもらうことへの畏れ」を学んできました。「生命・自然の循環への畏れ」を学んだと言い換えてもいいでしょうか。

昨年、会社設立50年を迎えたのを機に、ショールーム・ユニバーサルデザインスペースさいわいしや幸舎を建設し、従来の木材・建築部材の卸販売に加え、住・生活環境という言葉でくくられるすべての物件にこたえ、情報を発信できる企業を目指そうとしています。さらに、ユニバーサルデザインの提唱を進め、スプーン1本から住宅づくりまで、あらゆる年齢や能力の人々にとって、可能な限り使いやすい物や環境のデザインの普及に努めています。

安心・安全をキーワードに「年をとること、障害があることがハンディキャップにならない社会環境の構築」を社業のテーマの一つに据え、地域の皆さまのお役に立てる企業でありたいと考えています。(第2620地区 山梨県)

10月は
職業奉仕月間

魅力を引き出す喜び

鶴岡南RC 石川 諄子(婦人服販売)

1993年12月入会

仕事を通していろいろな人に出会えることの喜びは、職業人でなければ味わえません。お店に来ていただく人は、お客さまであると同時に、素晴らしい魅力をもった人が多いのです。その方々と何気ない世間話をしながら、そのお客さまの不思議な魅力を発見したり、個性が見えてきたりします。

そんな毎日が、日々新鮮に思えるのは私だけでしょうか。仕事のヒントは、毎日のお客さまとの会話の中から、そして「みつけてあげます貴女の知らない、貴女の美しさを」というキャッチフレーズが生まれてきたのです。お客さま自身が気づかないものを引き出してあげられる自信と喜びは、何物にも代えられないものであり、これが職業奉仕ではないかと考えています。

(第2800地区 山形県)



多くの女性を
素敵にしたい

子どもたちとともに

広島東南RC 佐野 庸子(保育園)

1999年6月入会

「おはようございます」。朝から子どもたちの元気な声が飛び交います。今日は地域のお年寄りを迎えてのミニ運動会。子どもたち手作りの招待はがきをもって、おじいちゃん、おばあちゃんもニコニコ笑顔です。大玉転がしやくす玉割り、「がんばってー!」と声援も弾みます。

共働き家庭の子どもたちを預かる保育園ですが、最近は地域に開かれたさまざまな行事や活動を行っています。妊婦さんや子育て中の親子、中学生のふれあい体験など、保育園にはたくさんの方が来園します。園児たちも地域のクリーン大作戦やお祭りなど、いろいろな行事に参加します。

少子高齢化の現在、核家族化により子どもたちのさま

10月は 職業奉仕月間

ざまな経験不足が嘆かれています。子どもたちの表情はいつでも新しい世界への期待や不安、好奇心に満ちています。人間形成で重要な乳幼児期の成長にかかわる責任の重い仕事ですが、子どもたちの輝く瞳に大きな喜びを見だし、その期待にこたえていきたいと思っています。

(第2710地区 広島県)



子どもたちに笑顔
を向ける佐野さん
(中央)

「書」の力を借りて

松江しんじ湖RC 齊田 香住(書家)

2001年5月入会

書にかかわる仕事をして二十余年になります。書の指導と普及、揮毫作品の頒布、最近では書文字そのものを必要とされ、制作提供するケースも少なくありません。

高齢化社会の中、私ども社中でも120人ほどの会員の約7割が60歳を超え、求められるところも「生きがいづくり」といった傾向となってきました。日々のけいこで精神を集中し、向上心を持ち続け、創作の喜びを味わう、個性を表現し、また一方で同朋との融和の時を得る、こうしたことが現役引退後の精神生活を充実させ、張りのあるものにしていく、そのお手伝いができることは、私にとってもまた、大きな生きがいとなっているところです。

機械が生み出す文字の機能性とは異なった、血の通った文字による書は、単に言葉の伝達だけでなく、癒し、やすらぎ、情熱を伝える力をもっています。その力を存分に発揮するものを創り上げることこそ、私の職業奉仕ではないかと思っております。

(第2690地区 鳥根県)



書をたしなむ皆
さんたちと
(中央)